



認定NPO法人
ヒマラヤ保全協会

IHC-JAPAN: The Institute for
Himalayan Conservation Japan

Shangri-la

シャングリラ



現地からの 植林事業報告

ドラカのキウイ技術を
ダウラギリ地域へ



100円でヒマラヤに1本の  を植えよう!

One coin One tree on Himalayan, tomorrow will be in your hands.

現 地 事 業



ジーン村からのお知らせ



環境デーに合わせて、現地の森林レンジャーと IHC-Nepalスタッフによる環境を考えるイベントが開催されました。学生や子供たち、現地住民と一緒に今世界の森で何が起きているのか、そしてネパールや発展途上国の森林が二酸化炭素を吸収し、いかに世界の気候変動に影響を及ぼしていることを学びました。

イベント後、学生から「まさか自分たちの住む国の森林が世界の気候に影響しているとは思わなかった。」「おじいちゃん達が私たちのために植林をしているのだと思っていたけれど、世界にも関わり合いがあると知って驚いた」という声がありました。

ジーン村で行なっている植林が、地球環境という視点においても、重要な役割を果たしているということを知る良いきっかけになりました。

植林は当協会活動費・寄付金・助成金により、運営しています。

(助成金は公益社団法人 国土緑化推進機構 の「緑の募金」よりご支援いただいております) (文責：清田)



森林レンジャーとIHC-Nepalスタッフによるイベント



育苗した苗がこんなに育ちました

植樹はみんなで行います



育った苗を担ぎ、これからみんなで植樹する場所へ向かいます



学校の先生も植樹に参加



ソーシャルワークをしている女性



現地の学生も実際に植林を行います



現 地 事 業

のつづき

バランジャ村の植林のようす



小さい苗たち



冬の苗畑小屋、春に植える苗を見守ります



苗畑管理人が丁寧に水を与えます



みんなで植樹に行くために苗を取り出しています



バランジャ村のみんなで集合写真



バランジャ村の「ジャクリパニ」
という場所に植樹しました！

ドラカのキウイ栽培技術を ダウラギリ地方へ

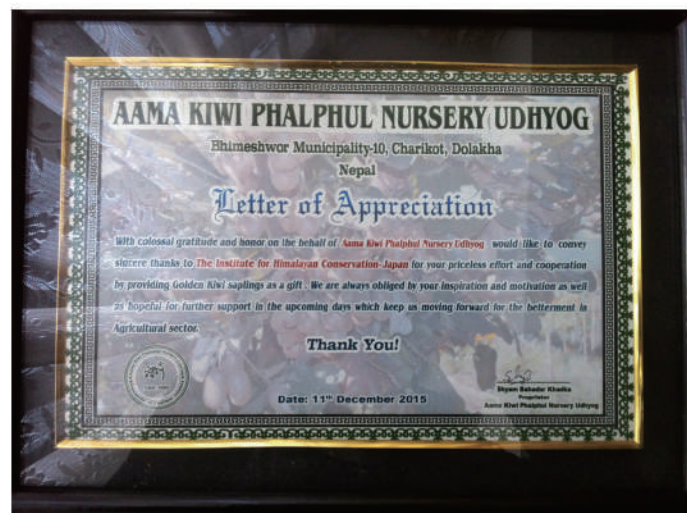
2015年12月、大震災に見舞われたドラカで、生家も全壊してしまったキウイ農家のシャムさんご家族に、1日も早い再建と、今後の発展を願って本会よりゴールデンキウイの雄株と雌株を贈呈いたしました。

この苗は、山形県で大正12年創業100年以上種苗に取り組まれておられる天香園にて健やかに育てられたものです。本国での検疫などを経て正式に贈呈させて頂きました。

シャムさんは、ドラカにて25年以上も前からキウイを研究・育苗され現地での普及にも貢献されている専門家です。そのシャムさんの手で健やかに育てられ、贈呈した新種の苗も健やかに育ち、すでに小さな実をつけるまでに育っているとのことでした。



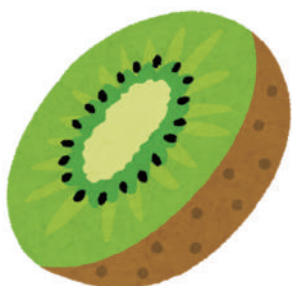
ドラカのシャムさん



日本のキウイの雄株と雌株を贈呈した際に
シャムさんよりいただいた感謝状

実は、元々あるグリーンキウイを試しに当会の事業地であるミャグディ郡でも植えてみたところ、山の寒さにも順応性がみられ、実がつくまでに育ちました。現地の方と検討した結果、現金収入のない山岳部農民の収入向上事業として立ち上げたいという

希望が強く上がったため、この度、ドラカで育てて来た苗を買って、ダウラギリ地方に育てるための準備を進めていくことになりました。



鈴なりになったキウイ

国内活動



理事
佐久間雅俊

ハイキングイベント「みんなでパハール in 吉野」

2017年10月21～22日 「パハール」とはネパール語で「山」という意味です。



吉野は「吉野・大峯」として「高野山」「熊野三山」とともに世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の構成要素の一つです。そこでは起源や成り立ちを異にする仏教、神道、修験道といった複数の信仰が山がちな日本の風土を土壌として密接に結びつき、独自の文化・世界を形作っています。これが同じく山国であるネパールにおいてチベット仏教、ヒンズー教そしてまた各民族の信奉する独自の信仰が共存する世界と共通する部分があるのではないかと、ということがこの地を開催地に選んだ理由でした。また、吉野の山の尾根の上を走る通りの両側や急勾配の坂道に茶屋や生活感漂う民家が並んでいる様子は、もちろん日本独自の様式であるとはいえ、どこかネパールの山の村の趣に近いのではないかと私は感じています。

金峯山寺から山の上の金峯神社まで、そして熊野へと続く長い修験道の修行道である大峯奥駈道的一端を会員の皆さんと歩いてみたい、また吉野独自の山や森の文化への理解を深めることで私達の活動も豊かにできるのではないかと企画しました。

→ 金峯山寺



当日は8名の会員さんに集まっていただきました。ところが残念なことにこの週末は台風21号の関西・関東への来襲に重なり、ハイキング自体は中止となってしまいました。ですが、一日目は奈良市内に集まり、宿にてみんなで調理をしての夕食会は大いに盛り上がりました。皆さんそれぞれのバックグラウンドをお持ちで、それぞれの視点からのIHCの活動やご自身の興味のあることについてユーモア交えて話してくださいました。



奈良の宿泊先での夕食会

二日目は吉野杉の製材所を訪問し、その土地の林業・製材の歴史と現状について話を聞かせていただきました。そして主要な観光地である金峯山寺を訪れました。修験道のお寺とはいえ、仏教発祥地ネパールからの文化の流れが感じられます。雨が強いのは残念ではありましたが、個人的には金峯山寺修行場付近の水の勢いなどに大自然の猛威を肌で感じる事ができ、それはそれで良い経験でありました。

今後もまた様々な方向性からイベントを企画していきます。皆さん参加をお待ちしております！



巨大な吉野杉の丸太の前で



吉野の山は室町時代から続く人工林です。針葉樹は台風の風雨や雪の重みでも曲がってしましますが、気候が良く和歌山県の山地に守られた吉野では良質な杉や桧が育ちます。

室町時代から植林の続く吉野で特徴的なのは「密植」という手法です。

一般的には1haあたり2千本のところ、吉野では1万本も植えます。一般的な杉の年輪の成長は1年1cm程ですが「密植」の場合は2-3mmほど。年輪の間隔が狭く木は上へと成長し、葉が少ない。木材にすると太さが均一でふしが少なく、扱いやすくなります。



吉野杉は元来酒樽用の材料とするため江戸中期より植えられました。古来より一大産地だった伏見から日本全国へ日本酒を運ぶのに杉樽が適していたのです。

鎌倉時代に西洋から木樽の製法が入る以前は割れやすい壺や木をくり抜いた重い容器で日本酒を運搬していましたが長

距離の運搬には不向きでした。木樽は軽くて大きい容器が作れるのが画期的で、大いに活用されました。

更に吉野の杉はなぜか他の産地より赤みが少なく香りも程よいため1900年代に大変な人気となり、この人気は昭和に入りガラスの一升瓶が登場し全国各地で酒造が始まるまで続きました。

この間200年間ほど吉野杉の密植が続きます。

酒樽の需要は昭和に入り減りましたが、密植によるまっすぐな吉野杉は住宅建材として利用されるようになりました。

吉野製材所ができたのは昭和14年です。木材の需要は酒樽の変化に加え昭和4年の世界恐慌で更に減少していたのですが、これに対抗し木材へ付加価値をつけることを目指し、日本初の木材工業団地が吉野にできました。

戦後復興期、木材が大量に使われたこともあり昭和40年代の吉野には140件程の小規模木材工場が集中、当時の人口は1万6千人程でした。

しかし1980年頃からの住宅様式の変化、人工素材の開発、不況により安価な素材へ需要が移ったこと等から吉野杉の売れ行きが落ち込みます。工場は36件に、人口も8千人まで減少、空き家が6百軒ほど。



製材する際に利用する のこぎりの刃

吉野では今植林をしていません。植えるために人件費がかかるからです。

植林してから100年経過すると地が木を支えられなくなるため切った方が良いのですが。

近年の日本の年間木材消費量は約8千万m³。一方国内で成長する木の容積も約8千万m³。なのに木材自給率は30%そこそこ。

木を切り、使っていくことが大切です。切った山を自然林に戻すことで豊かな山が戻ります。

吉野中央木材株式会社

<http://www.homarewood.co.jp>

石橋さん、本当にありがとうございました！

泊まりたい！吉野杉の家



製材所の近くに、吉野杉で作られた「吉野杉の家」があります。吉野杉の温もりと香りに包まれて、宿泊することができます！

<https://www.yoshinocedarhouse.com>

事

務

局

だより

大好評！ヒマラヤイラクサの帽子



2017年12月23日、雲南講話会にてブースを出展いたしました。ヒマラヤイラクサの帽子が多数の参加者の皆様に購入していただきました。



このヒマラヤイラクサの帽子は、老若男女問わずにみなさんにとってお似合いです。内側がフリースになっています。

売上げはネパール現地の支援に活用させていただきます！
ヒマラヤイラクサ帽子についてのお問い合わせは、
ihcjpn@ybb.ne.jp 担当 清田まで



寄付で支援する

100円で1本の木がヒマラヤに植えられます!!
1口 3,000円から何口でも結構です。
下記の振込み先にご送金ください。

マンスリーサポーターになる

毎月 1,000円 からマンスリーサポーターになることができます。マンスリーサポーターの皆様には、「活動報告書&計画書」年1回)をお送りします。

会員になる

年会費：個人会員 5,000円 ・団体会員 30,000円
会員の皆様には、現地の活動が盛りだくさんの会報『シャングリラ(Shangri-la)』をおとどけします。

■ みずほ銀行新宿南口支店 普通2005209

認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

■ 郵便振替

00100-0-709154

ヒマラヤ保全協会

※銀行振込みをご利用いただいた場合は、ご氏名(ふりがな)とご住所を、e-mailにてご連絡ください。

※国税庁より「認定NPO法人」として認可されておりますので、皆様からのご寄付は、税法上の特例措置の対象となります。

100円で1本の木をヒマラヤに植えよう！ ご支援お待ちしております！

シャングリラ第101号 2018年2月3日発行 編集・発行 認定NPO法人 ヒマラヤ保全協会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館 8階 808号室

TEL: 080-3570-8458 e-mail: ihcjpn@ybb.ne.jp ホームページ: <http://www.ihc-japan.org>